

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 90 分

## 解答形式

記述・論述・描図・選択・マーク

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少)・やや減少・変化なし・やや増加・増加

難易 (易化)・やや易化・変化なし・やや難化・難化

分量は減少し、難易度は下がったが、試験時間に対して適切な分量・難易度になった。

## 出題の特徴

設問の多くは空所補充で、一部に問形式を含む。受験生にとって目新しい問題を、誘導に従って解いていかなければならない。

## その他トピックス

特になし

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	空所補充・ 問形式 (記述)	力学 (放物運動・衝突)	物理	問題文の題意に沿って、丁寧に衝突後の速度を求めていけばよい。	標準
II	空所補充・ 問形式 (記述・描 図・論述)	電磁気 (電磁誘導・コ ンデンサーの 充放電)	物理	(1)は回転導体棒による典型的な問題である。(2)では、導体棒が反転する直前・直後の物理量を正確に捉える必要がある。(3)では見慣れない数式が与えられるが、題意をくみ取ってコンデンサーの電気量を追いかけていかなければならない。	やや難
III	空所補充・ 問形式 (記述)	原子 (ブラッグ反 射・物質波)	物理	(3)では、中性子の力学的エネルギーが保存することに注意して、辺 AB と辺 DC での速さの違いから位相差を求めればよい。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

1. 基本事項を正確に把握する。
2. 題意を正しく把握するための読解力を養う。
3. 図を用いて状況設定を正しく把握する習慣を身につける。
4. 正確で迅速な計算力を養う